

令和7年度3学期始業式式辞

昨年12月8日に大きな地震（青森県東方沖地震）がありました。最大震度6強を観測した八戸方面はもとより、むつ市内でも震度5強を観測、病院のスプリンクラーが作動して病室が水浸しになったり、ビルの外壁が落下したり、看板が落ちたり、店のショーウィンドウが割れ砕けたり等、全国ニュースで報道されるような大変な被害が生じました。

さらなる余震が想定されたことから、急遽避難訓練を実施しましたが、その直後に実際に余震が起きました。いざ行動となったとき、頭が真っ白になりませんでしたか。しかし皆さんは、実に素早く、的確に避難することができました。先生方の動きも素晴らしかったです。事前の訓練、すなわち準備が、いざというときに、どれだけ有効に働くか、身をもって学ぶことができたのではないのでしょうか。

昔読んだのですが、どんな難しい事案でもほぼ100%勝訴に持ち込むアメリカの凄腕弁護士が書いた本がありました。私がその本に求めていたのは、ミラクルな勝訴を可能にする臨機応変な弁舌力、論理力、ディベート力の秘密だったのですが、意外にも記されてあったのは、とにかく準備、準備、準備こそが全てなのだったということです。この弁護士は臨機応変な対応に定評があったのですが、それが実は、これでもかというほどの周到な準備に支えられていたというわけです。

さて、今日から三学期が始まりますが、皆さんには、この三学期を新年度に向けた準備の学期としてほしいと思っています。次に何が必要になるかを考え、準備することをしてほしい。特に三年生にとっては、卒業後の新たな生活へ踏み出す前の大切な時間です。ただ、これから試験を受ける人にしてみれば、悠長に新たな生活の準備とかそれどころではないという気持ちだとは思いますが、目の前の試験に向けて今できる準備があります。不安や焦りでいっぱいだと思いますが、だからこそ冷静になって今できる準備を一つひとつ重ねてほしいと思います。準備は心の余裕を生み、自信を取り戻す力となります。

皆さん、この締め括りの三学期を次への準備期間とし、充実した学期としてくれることを願っています。

令和8年1月13日
校長 伊藤文一